

2015年3月21日

山の学校イベント「瓜生山の史跡巡り」

瓜生山の史跡めぐり

山の学校講師 吉川弘晃

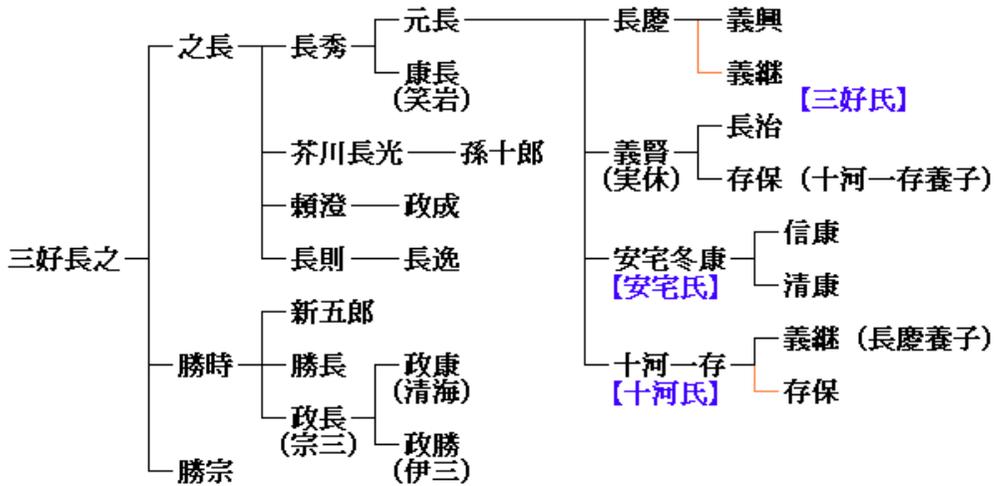
<本日のルート>

北白川幼稚園（出発点） → 白幽子岩居の跡 → 勝軍山城本体 → 瓜生山山頂（本丸）
→ 白鳥山展望台（北城出丸） → 狸谷不動院 → 狸谷不動尊 → 八大神社 → 一乗寺下り松 → サークル K（到着点）

<勝軍山城関連年表>

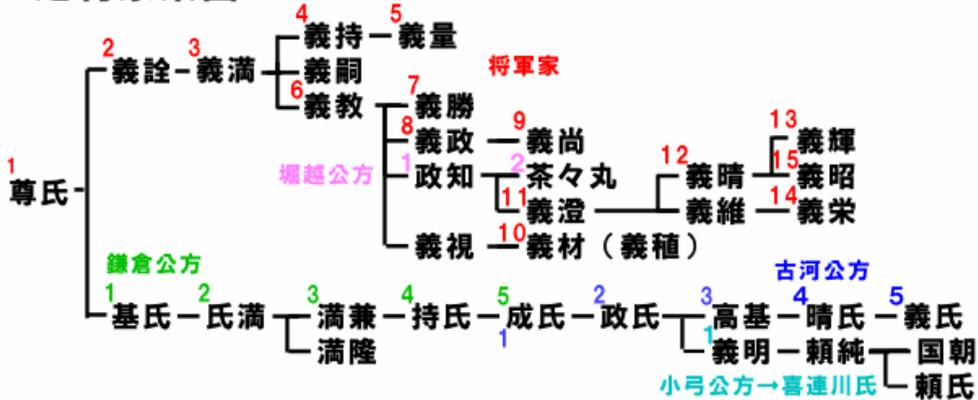
- 1467年 応仁の乱勃発、以後10年間に渡って京都は内乱状態に陥る。
- 1470年代～ 阿波（徳島県）の三好氏、細川管家率いる東軍に参加し、実力をつける。
- 1493年 明応の政変。細川（管領家）政元、クーデタにより政権を掌握。
- 1507年 永正の錯乱。細川政元が暗殺され、後継者争いへ（澄元・高国 vs 澄之）。三好之長、細川澄元（阿波細川家）に従って畿内を転戦しながら、細川家の実権を掌握していく。内乱は澄元と高国の争いへ発展するが、高国が京都を制圧し、澄元は阿波に逃亡する。
- 1520年 三好之長、京都を占領。高国は近江（滋賀県）の六角氏の支援を受けて之長と戦い、勝利。之長は処刑される。**この際、高国は瓜生山山頂に本陣を設け、前線基地として整備した。勝軍山城の歴史のはじまり。**
- 1526年 三好元長、澄元の子 晴元を擁して阿波に挙兵。
- 1527年 元長と晴元、足利義維を擁して堺に幕府を開く。
- 1531年 大物崩れ。高国、晴元と元長に敗北して自害。勝軍山城は晴元が奪取。
- 1532年 元長、一向一揆との戦いで敗死。堺幕府は滅亡。
- 1533年 元長の子 長慶、本願寺と細川晴元の講和を仲介する。
- 1534年 長慶、晴元の重臣となるが、数年後、晴元に謀反。その後は、將軍足利義晴とその下で政権を握る細川晴元と家臣の三好長慶の三つ巴の争いへ。
- 1546年 **義晴、晴元と対立したため、勝軍山城の本格的改修に手をつける。**
- 1547年 **義晴、京都の細川氏綱と連合して晴元の軍と対峙、勝軍山城に籠城するが、舍利寺の戦い氏綱が三好長慶に敗北したため、近江へ逃亡。**

〔三好家〕



〔足利家〕

足利家系図



＜勝軍山城のポイント＞

- ・東西の攻撃に対応するための城郭。
- ・東側（近江方面）から進軍して西側（京都方面）からの攻撃に備える。
- ・西側（京都方面）から進軍して東側（近江方面）からの攻撃に備える。
- ・京都は攻めやすく守りにくい地形。従って、街道沿いに拠点を作ることによってヒト・モノ・カネの流れを常に監視する必要があった。中央権力が弱かった室町幕府の財政を支えたのは街道の関所からの通行税であった（勝軍山城は山中越の監視）。



地図はグーグルマップより引用。

< 中世城郭に関する資料 >

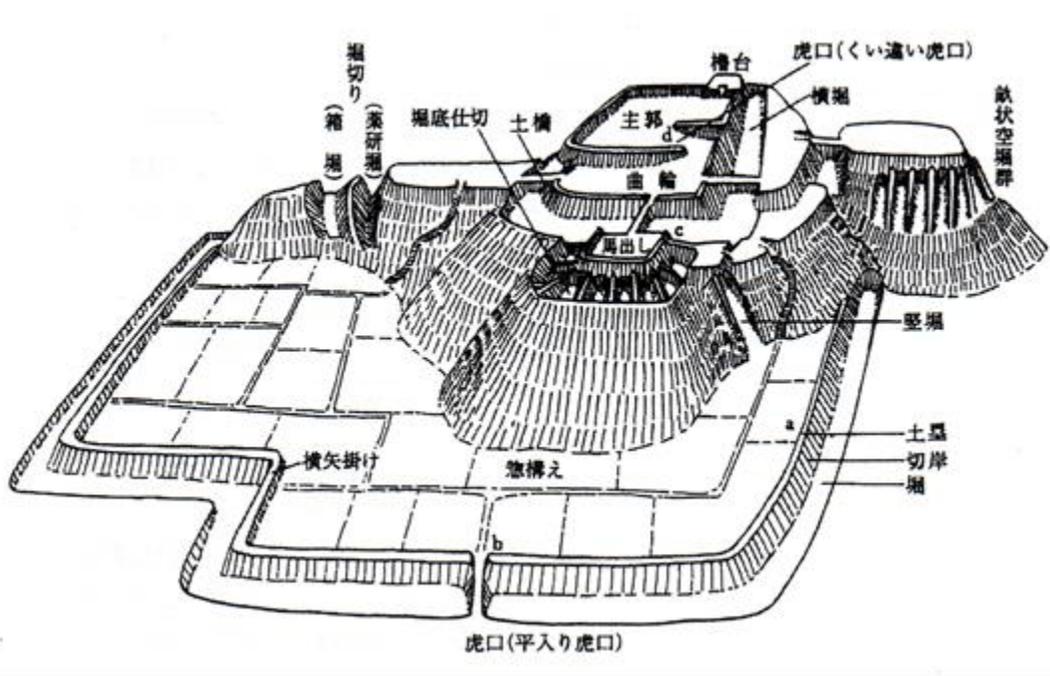


図 戦国期の山城の模式図

〔曲輪（くるわ）〕

城郭の単位となる区画。遺構としては平坦地の形で現れる。時代が下るにつれその配置は複雑化し、より洗練されたものになる。建物は原則的に曲輪の上にしか建てられず、また、曲輪は塀や柵でその周囲を囲んで防衛拠点としたり、単に攻撃側の進攻を妨害するために作られたりもする。代表的なものとして腰曲輪という、山の斜面を階段状に加工して敵が斜面を登るのを妨害するものなどがある。

〔堀（ほり）〕

敵兵の侵入を妨げるため、地面を掘り下げた地形。

堀の掘り方を断面的に分類すると、底面が平らな箱堀、V字の諸（もろ）薬（や）研（げん）堀（ぼり）、片方が傾斜する片薬研堀、U字型断面の毛抜堀、畝を堀中に削り残した畝堀などがある。また深田である田圃を堀とした場合もあり、これを泥田堀という。また、畝状堅堀のように等高線に垂直に掘られた堀もある。畝状堅堀を設けることで、城内に侵入しようとする敵兵たちを堅堀に沿って一列縦隊の状態にさせ、狙いうちすることができた。畝状堅堀は1540年代以降出現し、戦国時代後期の遺構に多く見られる。

〔堀切（ほりきり）〕

尾根を切って作った堀。山城の場合空堀であることが多い。山城の場合、堀切を作った過程で発生した土砂を土塁に転用することで、より効果的に築城が行える。基本的には尾根沿いなどの攻撃側の進攻ルートを遮断する形で築かれ、尾根道を分断する形に掘られた堀を堅堀、山岳の斜面を分断する形に掘られた堀を横堀という。戦国後期になると、畝状堅堀という、斜面と平行に幾筋も堅堀を連ね、敵の進路を限定することにより防衛効率の向上を図った機構が登場する。これは全国的に分布するが、特に毛利氏、秋月氏の城に特徴的であるといわれている。

〔虎口（こぐち）〕

城郭の出入り口とされる場所に設置される機構。敵の侵入を食い止める前線となる。当初は横堀に挟まれた細長い空間（帯曲輪と呼ばれる）であったのが、敵の進行を食い止めるため、時代が下るにつれてより入り組んだ形をとるようになった。

〔切岸〕

斜面の自然傾斜を削り取り絶壁状にしたもの。

<参考資料一覧>

- ・三好家関係の記述。

今谷明『戦国 三好一族一天下に号令した戦国大名』洋泉社、2007年。

- ・家系図の引用。

サイト「風雲戦国史」<http://www2.harimaya.com/sengoku/>

サイト「裏辺研究所」<http://www.uraken.net/>

- ・中世城郭関係の記述及び図の引用。

小和田哲男『中世城郭史の研究 〈小和田哲男著作集 第六巻〉』清文堂出版、2002年。

千田嘉博『織豊系城郭の形成』東京大学出版会、2000年。

鳥羽正雄『日本城郭辞典』東京堂出版、1971年。

西ヶ谷恭弘『日本史小百科—城郭』東京堂出版、1988年。

同『戦国の堅城 —築城から読み解く戦略と戦術—』学習研究社、2004年。

- ・勝軍山城の説明及び縄張図。

城郭談話会編『図解 近畿の城郭 I』戎光祥出版、2014年。